

米田柔整専門学校

学校自己評価報告書

(令和 6 年度)

評価項目一覧

- 1 教育理念・目標
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学習成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の受入れ募集
- 8 財務
- 9 法令などの遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

1. 教育理念・目標

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 自己評価：3

① 現状

・学校の理念は創設以来「佛手仏心」を掲げている。これは外科医の「鬼手仏心」をなぞらえ、仏のような手と仏のような心で患者に接する倫理感を説いている。柔道整復師養成施設は、教育基本法に則り、学校教育法及び柔道整復師法に従い、柔道整復に関する知識及び技術を修得させ、有能なる柔道整復師を養成することが基本原則と考える。米田病院、よねだ整形外科リハビリクリニックとの相互連携により、現場直結の専門学校として他校との差別化を図り、外部への発信を積極的に行い、業界で唯一の存在を目指している。一早く社会で活躍できる柔道整復師（人材）となるため、高水準かつ実践的な教育を施し、医療人としての心構えを教え、充実した学生生活が送れるように学生満足度の向上を目指す。現実的には、本校卒業の柔道整復師が生涯にわたり地域での信頼を得て（地域住民はもとより地域の医療機関との間で）、社会貢献が出来るような活躍の基盤を築けることが使命になる。このため本校では、座学講義や実技教育、そして柔道を3年間じっくり履修させるため、年間800時間を大きく超えるカリキュラムを組んでいた歴史がある。また平成30年からは新カリキュラムが開始されたことにより、外部への実習を卒業生との連携を深めて展開している。また、昨今のトレーナー活動への需要を受け、トレーナーサークルやスポーツトレーナー育成プログラムを開始し、新しい取り組みを実施している。

・教育理念は掲げられているが、第3者評価の項目に含まれる教育理念、教育目的、教育目標等が明確に定まっていなかったため、理事長、学長に意見をいただきながら作成する必要がある。

② 課題と改善点

学校の理念をより具体化するため、卒業生の質保証としてBSC（バランス・スコア・カード）を利用したPDCAサイクルを展開し、業務改善、見える化を推進していくことで理念を達成するシステムを構築していく。

・BSC会議も5年目が終了し、ビジョン（3年後の中期目標）をもとに、PDCAを展開することで業務改善を図った。

・また理事長より頂いた言葉である学生が「入学して良かったと思える学校」を目指して、新たなスローガンとして掲げていく。

・今後は介護分野での需要を形にしていきたい。

・第3者評価を見据えて、今一度、建学の精神、教育理念、教育目的、教育目標を見直し、学内外へわかりやすく、伝わるように工夫していきたい。現在、改めて作成中である。

・学校における職業教育の特色は何か 自己評価：4

① 現状

・本校の職業教育の特色は、「医接連携」にある。医師との連携下、患者さんを適切な方向に導く医療人としての総合力を刷り込んでいる。柔道整復師の専門性を追求するためには、生命を脅かす危険性を推測する力を獲得しておく必要があり、この優先順位を軸に患者さんに寄り添うことが柔道整復師の道であると考えている。言いかえれば骨・筋・関節等の運動器損傷の「スペシャリスト」である前に、患者の生命を守る医療人として、いわゆる「ジェネラリスト」の能力を持つことである。

② 課題と改善点

・医接連携は、接骨院に来院される患者さんの中で、重症度の高い外傷や障害、放置すると重症化する例、他科疾患の疑いのある例などで必要となる。しかし、接骨院で助手として現場にいる在校生の中には、「先生が病院や医院へ紹介している症例を見たことがない」、「ほとんどマッサージをする患者さんばかりで診察に時間をかけていない」、といった感想を洩らす者もいるため、学外の実習先を吟味して学生にとっても有意義な実習を展開できるように進めていく。

・従来、整復や固定といった施術行為の入口に力を入れてきたが、今後、更に「予防」に重点をおくカリキュラムを増加することで、患者教育に長け、自己の健康管理意識の高い柔道整復師を輩出し、そのことが医療費削減の一助になればと考えている。

・学校協会での新カリキュラムが作成されている中で、学校の中でもカリキュラムに対する検討を行っていき、独自性のあるカリキュラム作成を行っていきたい。

・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想は抱いているか 自己評価：3

① 現状

・近年の夜間部の入学者減少の状況を鑑みて、令和3年度募集は夜間部を停止することとなり、令和4年度も募集停止を継続。そこで、新たに中間クラスを設定し、第1部の3クラス制で新たなスタートを切った。現在は3年生のみ午前クラス、中間クラス、全日クラスの昼間3クラス制で運用開始しているが、学校の運用として50分授業がネックとなっているため、改善策が必要である。

・現在定員は80名であるため、中途半端な定員設定となっている。

② 課題と改善点

・夜間がなくなることによって昼間に授業が集中するため、次年度以降の授業の組み立てや職員の休みの取り方など新たな工夫が必要となることが予想される。一つの授業を複数人で担当するなど柔軟なカリキュラムの組み方など法律に準ずる中で考えていく必要がある。定員90名が理想であるが、今年度の学生募集状況を鑑みると今後定員60名への減少も視野に検討していく必要もある。

・令和6年度入学生から50分授業を廃止して、90分授業3コマに統一した。クラスは午前、全日の2クラスに変更した。

・今後学生募集が堅調に推移すれば定員を90名に増加することも検討したい。一方で定員が80名に満たない状況が続くようであれば、定員を60名に減少させ、スリム化を図る必要性も検討しなくてはならない。

・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか

自己評価：2

① 現状

・保護者等への周知については、全体に対し積極的に行っているとは言い難い。成績不良者の保護者等には、事あるごとに懇談や電話にて本校の理念・目的・特色をお話した上で、教育への関心を持っていただくようアプローチしている。また、ホームページを、親御さんにもみていただき、学校活動を垣間みていただく機会を設けている。

③ 課題と改善点

・保護者等への周知については、保護者等の方へといった明確なメッセージを用いた分かり易い文書により積極的なコミュニケーションを図っていく。コロナ禍では複数回にわたり保護者等宛てに状況の説明を書面にて行ったが、今後は Google Classroom の活用も視野に入れて展開していく。

・保護者にはオープンキャンパスの中でスライドを用いて学校の理念を伝えている。また、ホームページにおいても保護者向けのページを作成して、情報を展開している。

・学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか 自己

評価：3

① 現状

・業界との交流活動を充実させるために、公益社団法人日本柔道整復師会が主催する東海学術大会における学生報告の機会をつくる。

・業界のニーズを以前就職説明会においてアンケートを実施したところ、入職者に求める一番重要なものとして「素直さ」が挙げられた。

・スポーツをキーワードに女性の入学者の比率が増えてきている。5年前は28.3%であったが、今年度は36.7%まで増加している。

② 課題と改善点

・業界との交流活動を更に充実していくために、公益社団法人日本柔道整復師会が主催する東海学術大会における学生報告を今まで通り継続していく。また、公益社団法人愛知県柔道整復師会の主催行事の他、卒業生が行っている各種スポーツ大会（バスケットボール、サッカー、空手等）の救護等にも見学、助手といった立場で主にトレーナーサークルの学生が参加した。

・各教員においても学術に対する向上心を忘れずに、学会報告などを積極的に行っていく。

・業界のニーズとしては超音波観察装置（エコー）の普及が進んでいるため、学校としても機器を購入して教育が実施できる体制を整えていく。

・「素直さ」を醸成していくことは難しいが、仕事をしていく上で重要と捉えられていることは伝えていく。

・今後、より女性が活躍できる柔道整復の世界を展開していきたい。学校としては男女比が5:5となることを目標に募集活動を継続していく。

・エコーを1台入手できたので、今後、実習等でも活用していく。今後は台数を増やしてエコー実習も学校教育の強みとして展開していきたい。

2. 学校運営

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・目標に沿った運営方針が策定されているか 自己評価：3

① 現状

BSC 会議にて以下の 2023Vision を策定されていた。

- ・2024 年度入学生で「入学志願者延べ 160 名、実人数 120 名」を達成し、合格者 80 名を継続して達成できるように、戦略的な広報活動を行い、多くの入学希望者から選抜して質の良い入学生を獲得することを目指す。

- ・米田病院および卒業生とさらなる連携強化を図り、Win-Win の関係性をさらに強固なものにしていく。(実習、柔道特練、セミナー、トレーナー活動など)

- ・学生が卒業時に備えるべき知識・技術・人間性を明確に提示し、米田柔整卒業生としての質保証を確立する。特に初年次教育に力を入れて留年者、退学者の低減を図る。

- ・学生同士の縦横のつながりを強化し、学年を超えた交流を積極的に図る取り組みを行っていく。

- ・職員がやりがいをもって、気持ちよく働ける環境を整えるため、5 大目標（標準化、透明性、全体最適、継続性、双方向コミュニケーション）に沿って、業務改善を推進していく。

③ 課題と改善点

- ・PDCA が恒常的に進んでいく仕組みが必要になるため、BSC 会議を継続して行うとともに、同じ職場の仲間として職員がワンチームになれる風土作りを進めていく。

- ・2024 年度以降の新たなスローガン、ビジョン、PDCA も策定した。

～ 2024 VISION ～ 5 年目 スローガン：学生に「この学校に入って良かった」と思われる学校作りを目指す

- ・「入学志願者 100 名」を達成し、「合格者 80 名」を継続して達成できるように、戦略的な広報活動を行い、多くの入学希望者から選抜して質の良い入学生を獲得することを目指す。

- ・米田病院および卒業生とさらなる連携強化を図り、Win-Win の関係性をさらに強固なものにしていく。(実習、柔道特練、セミナー、トレーナー活動など)

- ・学生が卒業時に備えるべき知識・技術・人間性を明確に提示し、米田柔整卒業生としての質保証を確立する。特に初年次教育に力を入れて留年者、退学者の低減を図る。

・学生同士の縦横のつながりを強化し、学年を超えた交流を積極的に図る取り組みを行っていく。

・職員がやりがいをもって、気持ちよく働ける環境を整えるため、5大目標（標準化、透明性、全体最適、継続性、双方向コミュニケーション）に沿って、業務改善を推進していく。

・事業計画に沿った、運営方針が策定されているか 自己評価：3

① 現状

- ・事業計画・運営方針は理事会・評議員会にて承認を得て周知徹底している。
- ・教育活動収支差額が黒字に転換することを目指す。

④ 課題と改善点

- ・学生募集活動が最優先事項として掲げられているため、恒常的に定員を上回る出願状況を作り出し、質の高い入学生を選抜する仕組みが継続していくように募集活動を推進していく。
- ・教育活動収支差額が黒字化するには定員を満たすことと、支出を減らすことが必要のため、退学率の減少なども重要事項として取り組んでいく。

・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 自己評価：3

① 現状

- ・組織図をもとに意思決定機能は明確化されている。また、各種規定を作成しているため、それをもとに各事業を運用していく。
- ・意思決定のアルゴリズムが明確化されていない。

② 課題と改善点

- ・組織運営において業務の偏りや、業務のシェアがされていないなどの問題はあるため、一人しかできない仕事を減らしていき、業務の見える化とリスク管理を進めていく必要がある。
- ・意思決定のアルゴリズム等を組織図等で明確化する。

・人事、給与に関する制度は整備されているか 自己評価：3

① 現状

- ・人事、給与については就業規則並びに諸規定によって規定されている。米田病院で電子カルテの導入に関わった数名の柔道整復師が専科教員資格を取得しているため、学校教員との人事交流を数年単位で行っている。

② 課題と改善点

- ・積極的に若手の教員を登用し、組織が蛸壺化しないように代謝の改善を図っていく。
- ・今年度も新たに1名の若手教員を登用した。
- ・残業規定を見直し、より効率的に残業がとれる制度を整えた。
- ・休暇規定を見直し、次年度はより多くの休暇を取得できるよう制度を整えた。

・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 自己評価：3

① 現状

- ・理事長を中心に、在学生・卒業生の動向、医療情勢の現実を評価しながら、専任教員や事務員の配置を決めている。
- ・校長、副校長、事務長、校長補佐、教務主査で定期的にミーティングを行い、今後の方針などを常に話し合う体制を整えた。その上で理事長と意思疎通を図っている。
- ・理事長、学長を交えて経営に深く関与する打合せが不十分である。

② 課題と改善点

- ・専任教員については引き続き、運動器外傷や類症鑑別を重点に、医接連携の重要性も含めて講義を進めていく。意思決定については理事長、学長との双方向コミュニケーションを適切に図り、進めていくことが重要と考えている。
- ・理事長とは2週に1回程度、学校安全委員会を通じてコミュニケーションを図っている。
- ・毎月2回、理事長、学長、校長、副校長、校長補佐、経理部長、総務課主任、マネージャーが参集し、経営会議を行っていく。

・教育活動に関する情報公開が適切になされているか 自己評価：3

① 現状

- ・教育活動に関する情報公開は、在校生のスポーツ活動、研究活動等は広報誌や関係学会を窓口に行っている。柔道「形」で世界選手権優勝した石田姉妹（姉：本校教員、妹：本校卒業生）の活躍を積極的に広告し、本校の宣伝の一部にもなっている。
- ・職業実践専門課程を取得しており、各種情報はホームページ上で公開している。

③ 課題と改善点

- ・教育活動としては、学生トレーナー活動などをホームページに公告していき、それを継続することで他校との差別化をアピールしていきたい。また、ホームページ内の専任教員紹介の中に各自のシラバスをあわせて公開していきたい。
- ・ホームページを新しくしてより分かりやすく情報が伝わるように工夫している。ブログの更新を頻繁に行うことで教育活動のみえる化を実施し、学外の方々にも学校生活が伝わるように配慮している。

・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 自己評価：2

① 現状

- ・学生管理ツールの導入を検討したが、費用対効果の点から完全導入に至っていない現状がある。今後は学籍簿のペーパーレス化や電子教科書の導入など ICT 活用も検討していく。

② 課題と改善点

- ・コロナ対応として Google classroom を導入し、オンライン授業が飛躍的に進んだ。また Zoom も有償版を契約し、リアルタイムでのオンライン授業の環境も整備した。次年度以降 iPad の活用など本格的に ICT 化に向けて活動を促進していく。

- ・柔整師業務における診療録記載に、電子カルテのシステムを導入することで、柔道整復業務のグレーゾーンが少しでも解決されていくことに学校教育の側面から寄与したい。尚、この事案は、柔整業界とも連携をとりながら、診察の進め方、診療録記載のあり方を含め、実践教育の「核」として学校教育内容に取り入れていきたい。施術録の記載の徹底については教育課程編成委員会においても頻回に必要性を示唆いただいているため、実習の中で教育を実践していく。

- ・Kintone を導入し、業務の効率化を図っている。

3. 教育活動

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 自己評価：3

① 現状

・本校は外傷に対する管理能力の定着と共に医接連携を目標にした類症鑑別の能力向上を目標としている。このためその講義は、病院やクリニックでの勤務経験のある教員が具体的な症例を上げながら担当している。医科における診察技術を基本にした評価を実践し、業務範囲外の疾患を適切に医科に紹介できる基本的能力を養うことを目標にしている。また、ACL再建術後、THA術後など整形外科領域の術後患者の注意点やリハビリテーションについても、米田病院では手術数が多く臨床に立った際に有用と考える事例を講義内容に加えている。

・実技内における、プラスチックキャスト等の固定演習は従来通り進めている。本校の卒業生が医療機関へ就職する要因、あるいは就職後にもこの固定能力はアドバンテージになっている。

・現在、非常勤講師の専門基礎分野において非常勤講師の継続的な確保が難しい現状もあり、カリキュラムを検討する必要性が生じている。

・医療人として人命を守るため、救急救命講座を1年次を実施している。

② 課題と改善点

・実技教育としては他校にない内容を含んでいるが、公益財団法人柔道整復研修試験財団が実施している認定実技審査の結果をみると、実技教育としては偏った内容といわざるを得ない。伝統的な整復や固定の修得は原理原則であり、本末転倒にならないよう進めていかなければならない。

・専門基礎分野のスリム化を図るとともに、国家試験対策の厚みを持たせて、補充講義に頼らずに正規のカリキュラム内で国家試験合格に導ける仕組み作りが急務となっている。

・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 自己評価：3

① 現状

・教育到達レベルはまだ明確にされていない部分もあるため BSC 会議を通じて大枠を決めて、学年における到達目標を定めた。

・二期制が始まったことにより、定期考査後の特別再試験までの期間に学習サポートを実施し、学習についてこれない学生を無くす取り組みを実施した。

④ 課題と改善点

・教育到達レベルはまだ大枠を提示しただけであり、詳細かつ具体的な計画が必要である。また、コアカリキュラムを具体的に教育活動の中で活用できる仕組みを運用していくことが重要と考えている。

・学習時間の確保については二期制に変更することで、低学力者に対する取り組みを強化した。その結果、1年生、2年生は留年なしで進級することができた。1年生で学力が十分でない状況で進級した者もいるため、2年時の学習サポートで何とか学習レベルの引き上げを行っていく必要がある。

・カリキュラムは体系的に編成されているか 自己評価：3

① 現状

- ・学校協会で新カリキュラムの検討が始まっている。
- ・別表の見直しを行い、適切なカリキュラムを作成する必要がある。

② 課題と改善点

- ・曜日を固定して休暇をとるなど、あらかじめ休みが取れる体制も確保しつつ、カリキュラムを編成し、授業計画を進めていく必要がある。本校独自のコアカリキュラムについても実質的に運用できるように検討を進めていく。
- ・今後は別表の見直しも検討して、より本校の特色を生かしたカリキュラム作成を行っていき、教育課程編成委員会のおいても適宜意見をいただいて進めていく。

・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫が実施されているか 自己評価：3

① 現状

- ・キャリア教育・実践的な職業教育を行うには、臨床実習の占める割合が大きい。今後実習施設の充実を検討し、学生にとって成長できる場を提供していきたい。
- ・学内においても診察を模擬した模擬患者などでより臨床に近い形の体験を提供していく。
- ・学生同士の特に縦の関係性が希薄なため、縦のつながりを強化していく必要性を感じている。

② 課題と改善点

- ・希望者を対象に、柔道部員へのコンディショニング、外傷・障害予防を中心にトレーナーサークルの活動を行った。動機付として、常勤講師や卒業生からの講義形式の情報発信、実際のスポーツ現場での見学ならびに助手活動を行った。
- ・スポーツ医学検定や JATI-ATI（日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者）などプラスアルファの取り組みも実施することでモチベーションアップを図っていく。
- ・今後は超音波観察装置（エコー）をカリキュラムに組み込んでいきたい。
- ・臨床実習や模擬患者実習で1年生と3年生をペアにすることで、縦のつながりを創出し、コミュニケーションの強化を図った。

・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか 自己評価：3

① 現状

- ・職業実践専門課程にかかる教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を各2回開催している。

② 課題と改善点

- ・両委員会のメンバーを一部変更することより、さらに有意義な委員会を運用できるように検討を進めていく。高校の先生や他の業界人など多角的な視野で意見を頂ける人物が適任である。

・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけされているか 自己評価：3

① 現状

1年生は米田接骨院実習、よねだ整形外科リハビリクリニック実習を実施した。

2年生の介護実習は、学外の介護実習と学外接骨院実習を実施した。

3年生は学外病院実習と学内実習を併用した。

・米田接骨院では外部へ実習に出るにあたってのマナーや接遇を教えている。よねだ整形外科リハビリクリニックでは医療現場を見学することで医療人の自覚を養っている。学外接骨院では実践的な教育を受けることで柔道整復師の仕事への憧れを醸成する。介護施設では高齢者との交流を通じて学校では味わえないコミュニケーションを図っている。医療機関では実習の総括として医療機関における柔道整復師の役割とチーム医療を体感することが目的である。

・学内外において身だしなみの問題を指摘されることがあった。

② 課題と改善点

・教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会のメンバーを一部入れ替えて新たな視点から意見をいただき、委員会の活性化を図っていく。

・臨床実習における身だしなみの基準を作成し、実習前のチェック表などを活用し、身だしなみの統一を図っていく予定。

・授業評価の実施・評価体制はあるか 自己評価：2

① 現状

・授業評価は学生アンケートを半年ごとに実施し結果を各教員へフィードバックしている。また、講義の進捗状況を経時的に評価し、滞っている場合は、早期に対策を講じている。

② 課題と改善点

・授業評価は、本年度からその評価項目を一部変更し次年度からの講義により役立つ内容にしていく。学生の中には感情的で辛辣な内容を記述する者もいることから、該当教員にフィードバックする際にはその内容を十分確認しておく必要がある。

・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか 自己評価：3

① 現状

・学校関係者評価委員会を開催して学外からの評価を取り入れている。

・就職先の医療機関、接骨院の一部から聞き取り調査を行っている。愛知県は他の都道府県と比較し、医療機関が柔道整復師を雇用する事例が多い。このため、本校卒業生の4～6割が毎年病院や医院へ就職している。

・第3者評価に関しては平成30年に受けたが、年数も経過したため、受審の準備をしていく必要性がある。

② 課題と改善点

- ・学校関係者評価委員会の意見をさらに具体的な改革につなげていきたい。
- ・教育内容は卒業後の就職先における評価が重要になる。毎年卒業生がお世話になっている整形外科等の医療機関、接骨院等と情報交換を行い、不足と指摘を受けた教育内容については該当教員の講義で付加している。
- ・文科省より第3者評価におけるガイドラインが示されたのち、体制を整え、第3者評価を受審する方向性で考えている。

・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 自己評価：4

① 現状

- ・成績評価による進級判定・卒業判定会議での基準については学生ガイドブックに掲載し、周知徹底している。
- ・二期制の移行に伴い、成績評価、単位認定の基準を再度検討し、明確にする必要性があった。

② 課題と改善点

- ・単位認定に関しては明確になっているが、留年者の単位取得科目の国家試験対策の遅れなどに注意し、フォローする体制を作っていく。
- 次年度から2期制を採用してより低学力者に対して十分なサポートが実施できる体制を整えていく。
- ・二期制の移行に伴い、成績評価、単位認定の基準を再度検討し、明確にした。

・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

自己評価：3

① 現状

- ・1年次に運動器の基礎、2年次に類症鑑別や医接連携を目標とした代表的な損傷・障害の診察手順と評価、3年次に総合的な診察と臨床実習を行っている。国家試験については、各年次に運動器を中心とした理解度テスト（実力テスト）を複数回実施している。3年次には理解度テストに、業者の国家試験模擬テストを4回から6回に増やし、1月以降から必修問題への取り組みを強調して行っている。
- ・国家試験対策はカリキュラム以外の時間を費やすことも多いのが現状である。

② 課題と改善点

- ・国家試験の合格率はまだ十分とは言えないため、合格率100%を達成できるように今一度、国家試験対策の見直しを図ることも必要と考えている。また、学生の主体的な学びの構築が一番重要であるため、様々な角度から気づきの種をまく工夫が急務である。
- ・今年度は国家試験の問題は平易であるにもかかわらず、合格率が90%を下回ったため、次年度に向けて課題を抽出し、早期から対策を講じていく。
- ・国家試験対策も含めてカリキュラム内で完結できるように別表の見直しを図っていく。

・人財育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

自己評価：2

① 現状

・柔道整復専門分野の教員については、若手を起用している。1,2 年次から常勤だけでなく、多くの非常勤講師を登用して、各種施設、現場のリアルな情報を伝えてモチベーションの維持、向上を狙っている。例としては、医接連携を積極的に行っている者、業界の学術を牽引しその土台になっている者、トレーナーとして活躍している者などが専任教員と連携し担当している。

・非常勤講師の確保が十分でない科目もあったため、教育の質の低下をきたさないように講師の確保も重要項目と考えている。

・教員確保に関しては、余裕がある状況ではない。

② 課題と改善点

・卒業生には非常に熱のある志の高い人物もいるため、授業以外でモチベーション向上を図るような学生向けセミナーなども開催を検討していきたい。

・継続して講師の確保ができるように各方面に働きかけていく。

・関連分野における業界等との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか 自己評価：3

① 現状

・柔道整復専門分野の教員については、介護分野で活躍する教員も登用しているが、今後更に充実を図り、更に多くの教員を確保したい。

・今年度より PDCA の中に非常勤講師の確保を立ち上げて組織的に講師の確保を行える仕組みを検討した。

③ 課題と改善点

・PDCA の中で一部教科では非常勤講師の確保ができた。今後も非常勤講師を長い目で確保していけるように様々なコネクションを利用して安定した教育体制を整備できるように学校全体の問題として対処していく。

・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成などの資質向上のための取組が行われているか 自己評価：3

① 現状

・今年度は学校協会主催の教員研修会（東京）へ4名参加し資質向上を図った。

・Zoom を用いた教育系セミナーや転倒予防学会、日本柔道整復接骨医学会、東海学術大会、愛知県柔道整復師会開催のセミナーなどに参加した。

・柔道医科学委員会の活動にも一部参加している。

② 課題と改善点

- ・次年度は福岡開催だが、できるだけ多くの教員が参加できるよう支援していく。
- ・名古屋大学の解剖セミナーに参加できるよう働きかけていく。
- ・また勉強会の案内などは積極的に共有し、スキルアップの機会を提供していく。

・職員の能力開発のための研修等が行われているか 自己評価：3

① 現状

- ・卒業生を講師としたコミュニケーションセミナーを企画運営し知識や技術の習得、能力開発に役立てている。

② 課題と改善点

- ・コミュニケーションセミナーや教員研修会、関連する学会や研修会への参加を行っているが、現実的には限られた教員の積極性に委ねられている。自発的な提案が出る環境作りが必要になる。
- ・今年度も卒業生の症例報告を行った。失敗例を共有するなどして、非常に有意義なセミナーとなった。

4. 学習成果

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・就職率の向上が図られているか 自己評価：3

① 現状

・ 昨年の就職率は 100%であった。接骨院のみではなく、医療機関への就職率が毎年 4～5 割というのが本校の特徴である。

③ 課題と改善点

・ 就職率については、以前と比較し正確な実数が把握できている。5,530 人を超える卒業生とのコミュニケーションを充実させ、求める側と求められる側の適合性を高めていかなければならない。

・資格取得率の向上が図られているか 自己評価：3

① 現状

・ 資格取得率は 57 名受験し 52 名合格、合格率は 91.2% (新卒)であった。既卒は 6 名受験し、1 名の合格 (16.7%)であった。各学生の成績を分析して苦手科目を伝えることや頻回の面談によりモチベーションの維持を心がけている。低学力者に対しては少人数での国家試験対策（とくべん）を行った。

② 課題と改善点

・ 資格取得率は 100%でなかった現実を踏まえ、自己採点の結果を踏まえた科目別、問題別の正答率結果などの情報を共有し、非常勤講師ならびに常勤講師の講義・補充講義に生かしていくように願う。

・ 3 年生の 1 年間の底上げでは限界にきている現状があるため、1, 2 年次における解剖学、生理学、柔道整復学の主要 3 科目に対して理解度を上げる取り組みを行っていく。

・退学率の低減が図られているか 自己評価：3

① 現状

・ 退学者数（特に 1 年生）を抑える一方策として、高卒新入生に対して「入学前学習プログラム」を実施している。

・ 退学者の目標数値を経理の観点からも設定して、具体的な数値目標をクリアすることで退学率低減を図る仕組みを考えていきたい。

・ 目標の退学率を定めた。退学率 5%以下（192 名のうち 9 名以内）。

・ 学生カンファレンスを開催し、全学年において、各教員が情報を早期に共有し、学生への対応を心がけ退学者の減少に努める。

② 課題と改善点

・学期を二期制として、各定期考査後、学力不良学生に対して救済措置としての再試験を実施し、学力定着を図っていく。それにより、留年する割合が軽減し、退学率の低減を期待する。一方、国家試験合格率が下がることは致命的な結果となるため、3年間を通した全体教育の整備が急務となっている。

・退学率が高かった要因を分析して、次年度以降の退学率低減に向けて PDCA を作成、運用していく。

・退学者は9名であったため、目標数値内であったが、さらに減少してけるよう学生カンファレンスなどの継続実施を行う。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 自己評価：3

① 現状

・卒業生の社会的な活躍については、業界、同窓会、卒業生を通じて情報収集を行っている。

・実際に卒業生が活躍する姿を動画にして、ホームページにアップする案が出ていた。

・柔道大会や救護活動の現場において、情報収集を行っている。

・全国柔道整復学校協会の柔道大会の優勝報告会を実施し、多くの卒業生と在校生が交流を図った。

・ホームページのブログや SNS 等を通じて、在校生、卒業生の活躍を発信している。

② 課題と改善点

・各種スポーツなどにおける在校生の活躍については、同意とプライバシーに配慮した上で、積極的に公開していきたい。但し、同意の対象が学生個人への確認のみでは不十分な点もあり、保護者等、競技団体への確認も行う必要性を感じた。

・広報活動の一環として卒業生が接骨院やスポーツ現場で活躍している姿を動画撮影し、インタビュー形式で編集したものをホームページで公開した。

・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 自己評価：3

① 現状

・卒業後の動向把握については、コミュニケーションセミナーでの情報交換が主体であった。

② 課題と改善点

・卒業後については、同窓会を積極的に活用しながら、若手卒業生の動向やその志向を追跡し、正確に評価する機構を構築したい。また、就職先の医療機関や施術所にも定期的に伺い、教育内容の不足、問題点の把握に努めたい。

5. 学生支援

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・進路・就職に関する支援体制は整備されているか 自己評価：3

① 現状

・進路・就職相談は事務担当者と3年生担任が窓口となり、本人の希望や業界との連携に努めている。多様なニーズに応えるように、教員各自で個別の相談に対応している。コロナの影響も少なくなってきたため、今年度は2回に分けて就職説明会を実施した。

・求人票のファイルを作成し、学生が閲覧できる体制をとっている。

② 課題と改善点

・就職説明会の開催は今後も継続し、多くの企業との接点を増やしていきたい。また、就職することの本質的な意味を理解させ、就学意欲につながることを期待する。

・柔道整復師の生の声を聞くことで将来の姿が明確になっていくことを望んでいる。

・現在、求人票は紙ベースでしか閲覧できないので、今後電子媒体で閲覧できるようにすることも検討していく。

・学生相談に関する体制は整備されているか 自己評価：3

① 現状

・本校は各学年、担当制となっている。成績指導等については、地域で活躍している卒業生の事例紹介、成功体験により自信につながる補充講義への参加を促すなど、様々なアプローチを行っている。

・外部の相談窓口を設置し、学生相談体制を整えた。

・専門的なカウンセリングが必要な学生が増えてきているため、そのような学生の相談窓口が必要と判断した。

② 課題と改善点

・今後は女性に対する配慮などより細かな相談窓口を設置してクリーンな学校運営をしていきたい。

・学生が相談しやすい雰囲気作りも必要な社会情勢となってきたため、ハラスメントの無い学校運営を行っていく。

・臨床心理士の先生に依頼をして、カウンセリングを受けれる体制を準備した。

・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 自己評価：2

① 現状

・学納金の納入が遅延する場合は、その事情を検討して、一定期間考慮している。

・奨学金制度として、日本学生支援機構、(株)日本政策金融公庫などが受けられる。

・2019年度、高等教育就学支援制度を認可された。

・受験生対象の特待制度を設け、一般入学試験（第一次募集）の第一合格者における成績優秀者に授業料の一部免除を行っている。

・在校生対象の特待生制度を設け、2年次以降は「成績特待生」として授業料の一部免除を行っている。

② 課題と改善点

・学生の経済的側面の支援については、同窓会運営の見直しなどを通して、様々な方策を打ち出していきたい。数年前から検討しているが、適切な案が出てこない現状があり、他校の事例も含め検討を進めたい。

・教育訓練給付金制度を導入したいが、国家試験受験率が規定に達していないため、退学率を減少させていち早く導入に踏み込みたいと考えている。

・学生の健康管理を担う組織体制はあるか 自己評価：3

① 現状

・学生の外傷、健康管理については、緊急の場合、徒歩 10 分以内にあるよねだ整形外科リハビリクリニック、米田病院、名鉄病院に受診することが多い。その際、保護者等への連絡はもとより、学生の状態に合わせ教職員が付き添うようにしている。

・学生に対しての健康に関する啓発活動に不足がある。

② 課題と改善点

・学生の健康管理、特に柔道によるケガについては、3. 教育活動でも述べたように予防を第一に、外傷が発生した際には速やかな対応を継続して行っていかなければならない。

・柔道における頭部、頸部外傷の知識、および熱中症対策などの啓発活動をチラシや Google classroom 内での掲示にて実施した。

・課外活動に対する支援体制は整備されているか 自己評価：3

① 現状

・学生の各種スポーツ競技大会への参加、トレーナー活動についての正式依頼が関係団体から委嘱された際には、補充講義の実施、公欠等の扱いを行っている。この中で、学術的な報告に適する内容は、関係学会において学生発表の機会を設けている。柔道部の活動においては、東海地域や県内における大学の大会に特別枠で参加を許可いただいている。

・スポーツトレーナー育成プログラムの作成

特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者資格（JATI-ATI）養成校の認定を得た。一般社団法人日本スポーツ医学検定機構の行う医学検定のパートナー校になることで、学生が同検定の 1 級を目指す環境を整備した。

・日本スポーツ医学検定 1 級 合格率 50% 1 名合格/2 名受験

・JATI の受験料が高いことが学生の受験の足かせになっている現状がアンケートから分かった。

③ 課題と改善点

・JATI の合格率、スポーツ医学検定の合格率ともに低下傾向にあるためサポートを実施していく必要がある。

・学生の研究発表支援も引き続き継続していく。

・次年度以降で JATI、スポーツ医学検定の助成を行える体制を検討していくこととした。

・学生のご生活環境への支援体制は行われているか 自己評価：3

① 現状

- ・遠方のため実家より通学困難な学生のためにアパート情報の提供を行っている。
- ・一人暮らしの学生はメンタルケアがより重要となってくるため、声掛けなどを繰り返し行う必要性を感じている。
- ・4月に1人暮らしの学生を集めて、交流の場を学内で提供し、一人暮らし学生も安心して学業に専念できるようにお互いがサポートする取り組みを実施した。

③ 課題と改善点

- ・ホームページにおいても一人暮らし用のページを作成して、より一人暮らし学生に対する支援も充実させていきたい。
- ・遠方から来ている学生のみならず、県別や出身地、部活動など様々な観点からの各学生への支援も考えていく。

・保護者等と適切に連携しているか 自己評価：3

① 現状

- ・1年生は前期定期考査の結果を基に問題が見られる学生とその保護者等、校長・担任との三者面談を実施している。
- ・2年生は担任から本人への指導、前期定期考査後に保護者への電話連絡、冬季休業中を利用した三者面談を行い保護者に現状を報告し連携を図っている。
- ・3年生は本人への指導を優先的に行い、改善度に乏しく、内容の程度や成績、操行等について問題があれば、適宜、保護者等に連絡を取り、理解と協力を促している。

② 課題と改善点

- ・今後はクラスルーム機能を用いて保護者等にも参加していただくなど ICT を利用して新たな手法で連携をとっていくことも検討する。

・卒業生への支援体制はあるか 自己評価：3

① 現状

- ・年2回～3回、若手の卒業生を中心に日頃の臨床における疑問や成功・失敗例など、さまざまな体験について発表あるいは聴講できる双方向性の参加型セミナーとしてコミュニケーションセミナーを開催している。
- ・スキルアップセミナーやトレーナー研究会など実技型のセミナーも開催している。

② 課題と改善点

- ・コミュニケーションセミナー、スキルアップセミナー、トレーナー研究会を継続して開催する。

・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 自己評価：2

① 現状

・現状でも一定数は社会人経験のある学生は存在しており、学業以外にも仕事が必要となる学生のために午前クラスを設けて 13 時 20 分には帰宅できるクラスを設定している。

・教育訓練給付金の対象校から外れてしまっている。

③ 課題と改善点

・国家試験受験率を 80%以上とすることで教育訓練給付金制度を受け取れるので、次年度以降に体制を整える。

・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか 自己評価：2

① 現状

・高校を訪問する際に出張講座の案内を行い、希望があれば本校教員が高校に出向きトレーニング指導などを行っている。同時に、学生募集活動も兼ねた活動となっており、今後も Win-Win の関係で進めていきたい。

・本校教員複数名が高等学校に伺い、主に運動部活動生徒対象の模擬授業を行い、柔道整復師ならびに本校の認知度を高めることに加え、外傷・障害予防の自己啓発を目的としたいが、今年度は実施できなかった。

② 課題と改善点

・キャリア教育、職業教育については、受け入れ体制を明確にした積極的なアピールを行う必要がある。この際、業界との協力体制も含め、柔道整復師の職業を理解していただく提案を行ってきたい。

・次年度は中学校、高校から既に依頼が来ているため、出張講座を実施していく。

6. 教育環境

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか

自己評価：3

① 現状

- ・柔道場は熱中症対策として WBGT 温度計を設置し、冷房を完備して運用している。
- ・学生が自習できる環境としてホワイトボードを設置し、グループ学習が行いやすい環境を整えている。

② 課題と改善点

- ・接骨院が増築校舎内に移動したことから、道場のトレーニング機器を移動し、トレーニング施設とした。学生のフリーウェイトトレーニングには注意が必要になり、監視カメラを設置したが、個人使用時の緊急対応が課題である。
- ・模型及び実技の材料や器具が古くなってきているので、修理や購入を検討していく。

・学校外の実務施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 自己評価：2

① 現状

- ・学校外の実務施設は今のところ充実しているが、実習施設の新規開拓は継続して行っていく。

② 課題と改善点

- ・海外研修については、その目的、意義が見いだせない限り、現状で実施する考えはない。
- ・必要に応じて臨床実習指導者研修会を開催していく。

・防災に対する体制は整備されているか 自己評価：3

① 現状

- ・防災設備は年2回の専門業者による定期点検を実施している。
- ・有事の際に、学生が寝泊まりできる体制を整える必要があるため、保温用アルミシート、食料、簡易トイレなど必要最低限の備蓄は備えている。
- ・災害時緊急用の安否確認クラスルームを作成した。
- ・防災訓練に関しては新しい避難路の確認等を踏まえて年に1回ガイダンスに合わせて実施した。

② 課題と改善点

- ・防災訓練をより意義深い取り組みとして実施する方向で検討していく必要がある

7. 学生の受入れ募集

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・学生募集活動は、適正に行われているか 自己評価：3

① 現状

・学校案内・募集要項を刷新し、5月からは一般に配布出来るような体制である。併せて学校説明会も4月より毎月実施、また担当職員による各学校進路指導部の訪問と広報活動を実施している。

・A0入試は課題を提示し、そこに対する取り組み状況を確認することで入学の可否を判定している。昨今、スポーツトレーナーに憧れを抱く学生が多いことから、JATI-ATI（日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者）の資格及び日本スポーツ医学検定の資格取得のサポートを行っている。

・学校のホームページの充実と多角的な情報発信としてホームページ管理会社の見直しにより、経費削減と学内でホームページを更新できる環境を整備した。SNSでの情報発信を積極的に行った。動画を作成しホームページからの閲覧可能とした。

・資料請求ならびに学校説明者の来校者数を増加させることを目的に、ポータルサイトの活用、ダイレクトメールの発信、学校案内の刷新等を行った。

・学校説明会等の充実

本校への受験行動に繋がるとともに医療資格としての柔道整復師の認知度を高める目的で行った。説明会の満足度を向上させる目的で、全体の構成見直し、説明会内のプレゼンテーション見直し、学生による学校説明会チームの結成、WEB下での学校説明会等を行った。

・学生OCチームを結成し、学生目線でのオープンキャンパスを開催した。また日頃のオープンキャンパス対応もチーム内から選抜することで質の高い応接ができるようになった。

・より幅広い層から入学できる体制を検討する必要があった。

② 課題と改善点

・定員80名に対して79名の出願に終わり、定員充足には至らなかったが、昨年度に比べると状況は好転した。これを継続できるように広報活動を実施していく。

・北信越地方の柔道整復師志望の高校生に対して、新規開拓として高校訪問を3月に実施した。

・スポーツ推薦入試の対象者にマネージャーを加えた。また、校長推薦の評定平均を3.3から3.0に下げて間口を広げた。

・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 自己評価：3

① 現状

学校案内用のパンフレットを作成し、就職先や国家試験合格率、就職率などを説明している。

② 課題と改善点

・学生中心の新鮮なニュースがホームページで閲覧できる環境を継続していくことが重要と考えている（在校生の声、地域で活躍している卒業生の紹介、ブログの充実等）。

・新たに動画を撮影して日常の学生生活の様子が伝わるように工夫した。

・学納金は妥当なものとなっているか 自己評価：3

① 現状

・学納金は妥当なものと考えている。また、募集要項に記載されている費用以外はかからないようにしているが、募集要項を他校と比較した際に学費が高い印象を受けるので、表現の仕方を工夫した。

② 課題と改善点

・今後大きな変更の予定はないが、支援制度や補助制度を積極的に活用して経済的に厳しい方々へのサポート体制は推進していく。

8. 財務

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるのか 自己評価：3

① 現状

・3年前は定員を大きく割っていた時期で、それが続けば非常に不安定な時期であったが、一昨年から80名定員として、その定数に近い形での入学者を確保できていた。昨年度は再び、減少したが、今年度は持ち直した。

② 課題と改善点

・今後、80名定員を確保し続けることで財務基盤は安定していく。その中でもできるだけ多くの出願を獲得し、より質の高い入学生を確保するように入試選抜を行っていき、継続的な学校経営が図れるように取り組んでいく。

・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 自己評価：4

① 現状

・毎月1回顧問税理士により帳簿の点検、意見聴取を実施しており、予算・収支計画も会計士の指導の下組み立てている。財務情報公開についてもすぐに実施できる状況にある。

② 課題と改善点

・今後も継続して顧問税理士と打合せの上、進めていく。

・財務について会計監査が適正に行われているか 自己評価：4

① 現状

・会計処理は顧問会計事務所の指導により適正な会計処理を行っている。

② 課題と改善点

・今後も適正に顧問会計事務所と連携を図り、進めていく。

・財務情報公開の体制整備はできているか 自己評価：3

① 現状

・会計報告は毎年、厚生労働省・文部科学省に報告しているが、自己評価としてホームページ上の掲載を行っている。

② 課題と改善点

・今後も引き続き掲載を行っていく。

9. 法令などの遵守

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 自己評価：4

① 現状

・柔道整復師学校養成施設指定規則並びに学校教育法に基づいて、適正に運営を行っている。

② 課題と改善点

・今後も法令等を遵守し、適正な運用を図っていく。

・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 自己評価：4

① 現状

・個人情報の取り扱いに関しては十分に注意し職員へも指導している。

② 課題と改善点

・今後は電子教科書の導入に伴って PDF での資料などが主流になった際には著作権の問題がさらにシビアになってくるため、準備が必要と考えている。

・自己評価の実施と問題点の改善を努めているか 自己評価：4

① 現状

・自己評価を実施し、問題点の改善に努めている。
・BSC 会議を毎月行い、PDCA の進捗を確認して問題点の改善に努めている。

② 課題と改善点

・柔道整復師養成施設としての社会的存在意義を常に中心に置いて、自己評価を行っていかねばならない。

・自己評価を行う哲学と柔軟性、そして継続性を合わせ持つことが大きな目標と考えている。従来、職業訓練校として、学業、操行についての厳しさは、本校の特色としていたが、ゆとり世代、大学全入など、学業の受け取り方については、学生目線に立った一定の見直しが必要である。専門実践教育訓練講座にみられるように入学させた事の責任を全うするためには、柔道整復師の職に対する本質的な魅力、やりがい全ての学生が感じ、各自が育てていく実力を付けなければならない。このための一方法として、5500 人を超えた卒業生と実質的なコミュニケーションをとりながら、接骨院現場からの声を適正に評価し、教育内容の見直しに努めていくべきと考えている。

また、短期・中期・長期の目標と評価による適正なスコア化が必要になる。このためには、BSC 会議を中心に、教職員全体で方向性を共有し、経時的な評価、冷静な結果分析、次なる方策の策定など、恒常的に行うことが重要になる。

・ 自己評価結果を公開しているか 自己評価：4

① 現状

- ・ ホームページにて自己評価結果の公開を行っている。

URL:<https://yoneda.ac.jp>

② 課題と改善点

- ・ 今後も継続して自己評価は公開していく。

10. 社会貢献・地域貢献

※評価：適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか 自己評価：3

① 現状

・近隣の少年少女の健全育成を目的とした柔道の道場施設として、週2回、本校道場を柔道教室の場として提供している。

② 課題と改善点

・今後、本校の教員、施設を活用した積極的な地域貢献を経時的に実行していきたい。

・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 自己評価：2

① 現状

・東海学生柔道大会の救護班として本校教員を派遣している。この際、臨床実習として一部学生が救護助手を務めた。

・専任教員、非常勤講師の中で、大学、高校、中学からの各種スポーツ競技の部活動からの依頼で、個人的にトレーナー活動を行っている。

・トレーナーサークルが柔道特練のサポート活動を中心に行った。また日曜日に卒業生のトレーナー現場に帯同させていただき現場実習を行った。

② 課題と改善点

・学生のボランティア活動については、学校主導で積極的に参加を促すことが必要になる。ボランティアの内容によっては、事前セミナーなどを開催し、学生が活動に参加するにあたっての社会性、意義、スキル等について理解、体得させ、動機付けを行う。参加した学生にはボランティア内容の見える化を目標に、実際に体験した内容、必要と感じた情報や能力、現在の自分を評価した際の過不足、今後の課題等について文書化させる。その内容を評価し公告することで、大局的な視点の獲得や、参加していない学生への動機付けも期待したい。

・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか 自己評価：3

① 現状

・10月に米田道場にて転倒予防教室を米田病院職員と協力して実施した。

② 課題と改善点

・次年度も転倒予防教室の開催を計画していく。